

## 古高取を伝える会会報

### 直方の高取焼



古高取

目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	2
活動の記録	3
なんでも掲示板	6

『「見る」と「見える」は違う』

新年あけましておめでとうございます  
昨年は、多様な活動を企画、実施し、  
会員相互の支えの中、充実した取り組み  
となりました。

特に、内容の充実を目指し、体験を  
通して「見る」と「見える」の違いを学  
んだ一年でもありました。

「見る」の世界の事象（作品）と、  
「見える」の世界の事象（作品）は、大き  
く違います。

「見える」世界は、視野も広がり、主  
体的な行動となって表われます。

「見える」努力を、学習・研修といいま  
す。私たち「古高取を伝える会」は、  
「古高取」の魅力を広めるため、「見える」  
努力を、今後も続けて行くことが大切  
だと思います。

能間 瀧次

## 古高取の魅力伝える

「花」の茶陶・古高取

中村裕子

あたりの空気を一変させるような、当時の熱を帯びたままの塊が圧倒的な存在感を放つ。力感みなぎるフォルムはきわどいバランスを保ち、凜としている。煌びやかな窯変は優美で情感をたっぷりと湛え、刻まれた装飾の線は透徹として、陶工たちの技術と品格の高さを滲ませる。

風姿花伝に「花と、おもしろきと、めづらしきと、これ三つは同じ心なり。」という一節がある。「古高取」は、そんな茶陶だと思っ

た。なぜ「古高取に惹かれるのか」と問われたら、私は「自分が日本人で、日本が好きだから」としか答えようがない。織部好みの桃山陶は、日本人だからこそ生み出した焼き物で、また、その美を感得することは、日本人でなければ難しいのではないかと思う。

自然に完全なものではなく、うつろい変化していくのが常である。古来、自然への愛情と畏敬を抱いてきた日本人はそこに情緒を見出



個人所蔵

し、独自の感性を育んできた。文学における「和様の美」の表現については、その感性が芽生え顕在化しはじめた万葉集から、平安の古今和歌集・枕草子などを経て、中世の徒然草において「無常観」を美意識として昇華させたことでは

ば確立する。そして茶陶における「和様の美」の確立、その役割を担ったのは織部好みの桃山陶ではないだろうか。つまり中世の文学に例えると、「行く河の流れは絶えずして、しか

も、もとの水にあらず。」から始まる冒頭文で諦観の強い無常観を表した「方丈記」が内省的な「わび茶」の利休好み(様式)の茶道具と

するなら、「世は定めなきこそいみじけれ」と、無常観を美意識として昇華させた「徒然草」は、「侘び・寂び」を能動的に具現化した「織部好みの桃山陶」だと思えるからである。織部好みの桃山陶は、茶の湯の枠組みの中にあつて創造性を追求し飛躍させ、調和や均整を破ることで無限を感じさせる「不完全の美」の奥深い精神性を表現した。さらに、華やかな釉調とモードを取り込んだ意匠に慶長の明るさを存分に盛り込んでい

る。内ヶ磯窯はその「織部好みの茶陶を焼き出した最後の大家」であるという。造形に見られる抜群のバランス感覚と、とくに窯詰め・焼成技術やさまざまな装飾技法による意匠の豊かさは多面的な見所を創り出しており、桃山陶を焼きだした窯の中でも卓抜したものを感ずる。内ヶ磯窯ほど、「和様の美」の表現を追究し、深化した茶陶を焼き出した窯を、私は他に知らない。ゆえに、自分にとつて「古高取」は最高の焼き物だと思っ

ている。もつと「古高取」について知りたいが、その一番の資料となる古高取の窯の発掘陶片などは、まだたくさん目に触れない状態で保管

されている。眼で観ることはもちろん、あらゆる感覚を全開にして感じようとしなければ、陶片から受け取れる情報はわずかだ。その為には、簡単なことではないが、誰もが古高取の資料に直接触れたり、可能な限り体感できるスペースがあれば良いと思う。「古高取を伝える会」への参加も、会が掲げる「古高取資料館設置」という計画に微力ながらお手伝いしたいと思う一心からである。「古高取」の魅力が会の活動を通じてたくさんの人に伝わり、この計画が、一日も早く実現することを願っている。

## 古高取の広場

初めての子供焼物教室

柴田 ムツ子

「初めての茶碗づくりだったけど、楽しかったです」大きなヒビが入ったので、直すのに時間がかかったけど、何とか出来上がったときはとってもうれしかったです「どんな茶碗が出来るか、ちよつと心配です」……

小学校六年生の古高取茶碗づくりの感想です。私は、それぞれの学校にボランティアとして、参加していますが、粘りのないヒビの入りやすい土を、手口クロとほんのわずかな水だけで、道具は一切使わずに茶碗を作り上げる子供たちの技には感心させられます。

私が、最初にこの古高取の茶碗作りに挑戦したのは、高取焼開窯四〇〇年祭が実施された二〇〇六年の二月でした。二〇〇六年十月に千人茶会が行われるということで、マイ茶碗を作ろうということでの参加でした。

講師は、今は亡き原田忠先生です。趣味で陶芸教室に通っていま



したので気楽な気分での参加でした。ところが、日ごろ使っている粘りのある土とは全く違った性質をもつ古高取に限りなく近いといわれている土に、悪戦苦闘。もうめちやくちやでした。荒練りと菊練りを丁寧にして、再挑戦。しかしながら、大きなヒビは入るばかり。扱えば扱うほどヒビは大きくなる一方です。もうくたくたでした。

こんなに使いにくい土を憎らしくさえ思いました。

そして、今までの私の陶芸は一体なんだったのだろうと深く考える良いきっかけとなりました。

また、先人達は、このような土を使って一生懸命に器づくりをしていたのかと感心させられました。

美濃焼き七代加藤幸兵衛氏は、「土そのものが持つている性質は

いいところもあれば悪いところもある。それをストレートに出したほうが良い。いい形やいい模様を表現するために土があるのでなく、出会った土とどのように向かい合うのか、言い換えれば土が本来持っているエネルギーをどう引き出すかが私の手ひねり作品の課題です」と述べられています。まさにその通りだと、古高取の土に触れて感じたところです。

生きている土に人間が手を入れてより高度な土となり、炎と釉薬の力で、器になっていく課程は、想像するだけでもわくわくします。さて、つくった茶碗は使って、よりいっそう大きな感動を味わうものです。

各学校では、卒業前の思い出づくりにと。茶会などを行われるとの事です。うれしい限りです。これを契機に日本の伝統文化である茶道に関心を持つ子供たちが増えればと願っています。

最後に、土の持つ限らない魅力と特性を生かしてきた先人達の技は、現代社会において叫ばれている「自然との共生」へとつながるのであることを考えると、まさにその智慧に驚嘆するところです。

## 活動の記録

### ● 地域対象焼物教室

福地校区地域活動

「おしゃべり喫茶」

〈平成二十二年七月三十日(土)〉

場所…畑公民館

参加者…三十八名(子供含む)

畑公民館で開催された「おしゃべり喫茶」では、子供達も含めた参加者の方たちがマイ茶碗を作り、

作品は「古高取展」でも展示させていただきました。

高取焼発祥の地ということ地元の人達の関心度も少しづつ大きくなっていくように感じられます。今後はこの活動を直方地域対象焼物教室へと発展させていけたらと考えています。

末松 登志子



### ● 子供焼物教室

後期(平成二十二年八月〜十二月)

今年度の子供焼物教室は、後期、4校が終了しました。

子供焼物教室も今年で3年目となり「古高取を伝える会焼物教室」が各学校の教育計画に位置づき、ようやく根づいてきた様に思います。

市内十一校を巡り子供たちとのふれあいがとても楽しみであり、我々スタッフはいつも元気をもらっています。

今年は何となく大変な猛暑でしたが何とか無事終えることができほっとしています。

そして今年度は保護者の方々や先生方の参加が多く子供たち同様とても良い作品が出来上がり嬉しいかぎりでした。

お茶会も昨年は7校が実施されていますが、今年は全校が子供たちのマイ茶わんでお茶会を楽しんでもらいたいものです。

十二月三日に直方北小学校のお茶会の様子がテレビで放映されとても良い思い出となったのではないかと思います。

一年一年「古高取を伝える会」が子供たちを通じて保護者や地域の方々に伝わっていることを実感しています。

また来年も充実した焼き物教室にして行きたいとスタッフ一同はりきっています。

永富 セツ子

くくくくくくくくくくくくくくくく

### 「第八回」

平成二十二年九月七日（火）  
場所：福地小学校

### 「第九回」

平成二十二年十月五日（火）  
場所：下境小学校

### 「第十回」

平成二十二年十月十九日（火）  
場所：中泉小学校

### 「第十一回」

平成二十二年十一月三十日（火）  
場所：感田小学校



### 直方の宝「古高取展」開催

平成二十二年九月二十八日（土）

十月三日（土）

場所：直方谷尾美術館

今回は、古高取の伝世品と、内ヶ磯窯跡出土品を並べて展示し、

古高取の知識を広めることに心がけました。

また、高取焼を収蔵している日本各地の美術館・博物館の紹介、本会の活動を記録したビデオの放映、焼物教室、参加者の質問に答える「古高取問答」を行いました。参加者は、延三五八名で、市外や県外が半数を占め、古高取への関心の広がりを実感しました。

隅田 知明



### 「古高取展」でのDVDについて

千羽 登

「古高取を伝える会」では、毎年

の総会で、「活動の4本の柱」を確認している。

- 一、活動の拠点を創る
- 二、古高取の知識を深める
- 三、古高取の魅力を伝える
- 四、次世代へつなげる

これが実際にどのような取り組みで行われているかを静止画と動画を織り交ぜながら、映像を具体的に編集した。

一、は、最も基本的で、活動の出発点である。最も重要でありながら、最も取り組みが遅れている分野として最後のまとめにもつてきた。

二、は、毎年、総会時のほかにも、古高取基礎研修講座として、定期的に開いている。しかしながら最近では、参加者が少なくなっている傾向がある。講座の開き方などもう少し工夫が必要かもしれない。

三、は、古高取のホームページ開設をはじめ、紅葉ウォーキング、チューリップフェア会場での呈茶、古高取展等、多彩な取り組みが行われている。ホームページには、古高取の紹介、解説はもちろん、今まで発行された「古高取通信」の内容のすべてにわたって掲載されている。これらは市民にはあまり知られていない。宣伝不足も反省される。

四、は、市内のすべての小学校での焼き物教室、イオンなど大型商業施設での焼き物体験教室など、これも精力的に取り組まれた。

一、に返ろう。直方市内には、独立した歴史資料館、博物館はなく、優れた貴重な高取焼の作品は全国の博物館、美術館にちらばっている。また、数年にわたって調査、発掘された膨大な資料が、太宰府の山中のプレハブ倉庫に、整然と整理されて、公開されずに眠っている。その上、肝心要の内ヶ磯窯跡はダム湖底に沈められたままである。これらの郷土の貴重な歴史資源を全国に発信するのに、その都度、借り物と写真だけで紹介するというのはなんとも寂しい限りである。直方市民はもつと怒りの声を上げなければならぬのではないのだろうか。また、市長や市議はこのさびしい現実をどうとらえているのか、知りたいものである。



●「直方焼スパ」デビュー  
(直方賑わい町づくり協議会)



十一月三日「直方焼スパ」のお披露目会が行われ、いよいよ十一月五日から直方の二十五店舗でデビューしました。

十二月一日からは三店舗が追加参加されました。

焼スパソール色ののぼり旗をあちこちに見かけるようになりました。

町中では昼間の時間の営業店が少ない問題点もありますが、まだスタートしたばかりです、お店の方も努力されると思います。

皆様一度「直方焼スパ」を食べて下さい、懐かしい青春の味です。

末松 登志子

●満喫の紅葉ウォーキング

〈平成二十二年十一月二十三日(祝)〉  
場所…いこいの村集合

春山滴る、夏山笑う、秋山粧う、冬山眠る。

第3回紅葉ウォーキングを十一月二十三日、勤労感謝の日に行いました。当日は天候にも恵まれ、福智山麓の紅葉は一段とあでやかで、参加者も和気あいあい、いこの村を出発、ゆつくりと紅葉を愛でながら内ヶ磯の溪谷に足を進め福智山ダムに到着、今回初めてダムを周遊し湖底に沈んでいる四百年程前の窯跡を想い、そして、陶工達の作陶への情熱を思いながら、私共「古高取を伝える会」の願いを新たにしました事であります。

昼食は拙寺(明元寺)の境内で行ない、当日は「もみじ法要」の催しの為婦人会より、猪鍋、おでん、おにぎり等の用意をして頂き、身は満腹、満タン、そして心は満足、満悦、時間の関係で当初予定していましたが「城下街永満寺の治水」見学を省いた点が満点に届きませんでした、晩秋の山里ゆったりとした時間の中で満る、永満寺を後に帰路につきました。

関係の皆様ご苦労様でした。  
カカンケンコン、コンケンカカ

ン(書かないから来ない、来ないから書かない)ア一年賀状大変です。

鷹取 宗恵



●高取焼基礎研修講座

「神屋宗湛の遺跡を訪ねて歩く」

〈平成二十二年十一月二十七日(日)〉  
場所…博多駅集合  
参加者…十三名

本年度は、神屋宗湛が書いた「神屋宗湛日記」を中心に、茶会記の中で豊臣秀吉と古田織部との茶会を基にして、秀吉が博多の宗湛屋敷の御成の茶事等を古文書で読み下して説明を付した。

そのまとめとして、博多の町の「神屋宗湛の遺跡を訪ねて歩く」ということで、十一月二十七日十時三十分博多駅中央博多口から出発した。東長寺（黒田忠之公墓所等）妙楽寺（神屋宗湛墓所等）島井宗室屋敷跡（中呉服町）博多小学校（神屋宗湛屋敷跡及び元寇防墨跡）濡衣塚崇福寺（島井宗室墓地、玄洋社墓所及び黒田家墓所等）九大病院（千利休釜下げの松）を見て解散した。行程は三時間であった。

学習部会の最終講義となった。参加の皆様ご苦労さまでした。

副島 邦弘



●天狗岩登山を行いました  
(金剛山もとり協議会)

平成二十二年十一月二十八日(日)  
登山コース…もととり広場〜栗山  
天狗岩

秋空のもと、金剛山もととり協議会のメンバー十九名が、天狗岩登山を行いました。

急な勾配に足を取られながらも金剛山八合目(五〇〇m)の天狗岩から見える景色は皆が「絶景かな」と叫ぶようでした。

初心者には少し厳しい登山ではありましたが、楽しい一日でした。次回は、もととり広場での楽しい焼物教室を計画しております。

末松 登志子

なんでも掲示板

●「栄西と中世博多展」で呈茶  
(歳時館子供茶道教室)

平成二十二年十月十一日(祝)  
場所…福岡市博物館

直方歳時館子供茶道教室の子供達が呈茶席を受けもたせていただきました。

月に一度のおけいこですが、皆おちついてお手前、接待が出来ました。

また、子供達は博物館の学芸員堀尾先生から栄西展の説明を受け、少し緊張しながらもいろいろな展示物を見学しました。

今回、茶道を通していろいろな文化にふれ、一益を持って感謝する事を経験した一日でした。

子供茶道教室 田中 紀子



〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

新年早々風邪をこじらせてしまいました。おかげで昨年末から準備していた会報の発行が大幅に遅れてしまい、早めに頂いた記事もちよつと時期がずれまして申し訳無く思っております。まだまだ風邪が流行っております。皆様もご用心くださいますようお願い致します。

〈お詫び〉

会報No.7の誤字訂正  
(5ページ3行目)  
誤 新来新兵衛邸  
正 有来新兵衛邸

「古高取通信」会報・NO8

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十三年一月三十一日

〈現在の会員数〉

正会員 七十六名  
賛助会員 十四名(十九日)  
団体 二団体(三〇日)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二〇〇二六  
福岡県直方市津田町七十四  
TEL〇九四九(二三)二二三二